



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター Nara IDSC
(奈良県保健環境研究センター内)



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 流行感染症情報：感染性胃腸炎
- 全数把握対象感染症発生状況（平成 24 年 10 月） NEW

流行が拡大している感染症について
今週から掲載していきます。



(調査週) 平成 24 年 第 46 週 11 月 12 日 (月) ~ 11 月 18 日 (日)

奈良県および二次医療圏別発生状況 (奈良県上位 5 疾患) (5 週前からの動向)

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	12.80	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
2	A 群溶連菌咽頭炎	0.77	↑	↑↑	→~↓	↓
3	水痘	0.71	↑	→~↑	↑	↑↑
4	RS ウイルス感染症	0.51	→~↓	→~↓	↓	↑
5	突発性発しん	0.37	→	↑	→	→~↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は248例で、前週報告の160例から増加。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②A群溶連菌咽頭炎、③RSウイルス感染症＝水痘＝手足口病の順。感染性胃腸炎の報告数（180例）は、2週連続での急増。A群溶連菌咽頭炎の報告数（23例）は、ほぼ倍増。手足口病の報告数（10例）は、やや増加。RSウイルス感染症の報告数（10例）は、ほぼ横ばい。水痘の報告数（10例）も、ほぼ横ばい。また、インフルエンザ定点からの報告は、第43週に1例報告されて以降、第46週まで奈良市HCおよび郡山HC両管内共になかった。郡

山HC管内眼科定点から、流行性角結膜炎の報告が2例あった。また、郡山HC管内基幹定点からは、マイコプラズマ肺炎が2例報告された。

(村井 記)

県北部外来状況 外来患者数は、やや増加しているが。一方、予防接種は非常に多い。RSウイルス感染症は減少しているが、まだみとめられる。感染性胃腸炎が徐々に増えてきている。症状は嘔吐と下痢、腹痛であるが、1-2日で軽快することが多いようである。

(矢追 記)

県中部外来状況 外来数は少しずつ増加中。咳が主のRS、マイコプラズマ様の例が多いが、RS陽性例は少ない。今週になって近小学校でノロウイルス様嘔吐のため学級閉鎖続出。中に、キャンピロバクター、O25感染症もあった。水痘が流行中。高熱例はわずか、インフルエンザ陽性例はなかった。

(岡本 記)

県南部地区概況 報告数(第45週→第46週)は53例→68例と増加。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎(40例→61例)、②RSウイルス感染症(6例→3例)、③水痘(2例→2例)、④咽頭結膜熱(0例→1例)、④突発性発疹(3例→1例)であった。

(柳生 記)

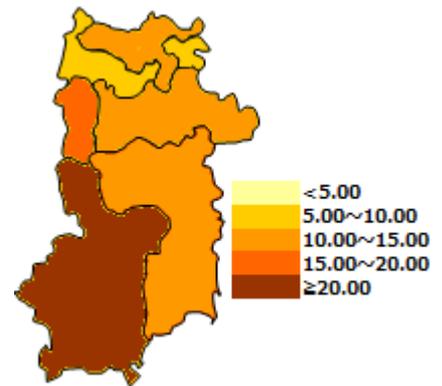
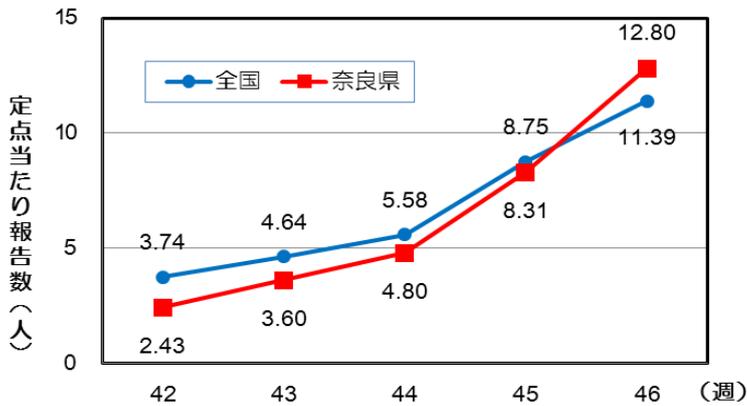
県南部外来状況 外来数は各種ワクチンを除けば横這い～やや増加程度。感染性胃腸炎が激増、殆どがノロウイルスの模様で幼稚園等で大流行、家族内感染率も高い。軽い下痢程度の保育園児もノロ迅速陽性を認めた(便色クリーム色)。第45週でRSウイルス感染症がやや多かったが第46週では見られなかった。水痘がやや。第45週で手足口病が1例あった。インフルエンザ様ではないが主に高熱の続く幼児例がやや有り。

(山本 記)



《 流行感染症情報：感染性胃腸炎 》

第 46 週の奈良県全体における定点あたり報告数は 12.80（報告数 448）と、5 週連続で増加しています。全国値は 11.39 であり、奈良県は上回っています。



保健所別定点あたり報告数

【全数把握対象感染症発生状況（平成 24 年 10 月）】

平成 24 年 10 月に奈良県内の保健所に届出のあった全数把握対象感染症は、以下のとおりです。

10 月報告患者数（平成 24 年 11 月 21 日現在）

類型	疾患名/保健所名	奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野	計
2 類	結核	12	6	9	10	3	1	41
3 類	細菌性赤痢		2					2
	腸管出血性大腸菌感染症		2					2
4 類	デング熱			1				1
	レジオネラ症			1	1			2
5 類	アメーバ赤痢		1					1

感染症情報センターホームページアドレス

http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-27874.htm